

北斎かわらばん

すみだ北斎美術館ニュース

第12号

平成23年(2011年)3月発行



北斎の描いた

年中行事

①

—花見—

現在の東京都北区、飛鳥山辺りの風景を描いた作品です。北斎は浮絵の技法を用いて、この一帯を捉えています。浮絵とは、西洋の遠近法を採り入れた浮世絵技法のことで、手前が浮き上がって見えることから名づけられました。

寒さが緩みはじめる早春、人々が心待ちにする行楽のひとつにお花見があります。現在も花見客でにぎわう飛鳥山は、將軍吉宗による享保の改革で桜が植樹され、南の品川御殿山、東の隅田川向島・上野寛永寺に並ぶ、江戸の桜の名所となりました。飛鳥山は標高約二十五メートル程の小高い丘ですが、筑波山や富士山も望むことができ、眺めの良い場所でもありました。

画面中央右寄りに石碑が

描かれ、人々が集まり見上げています。飛鳥山を描いた浮世絵には、この石碑がほぼ必ず描かれています。その碑文は難しく、一般庶民には読めないことで有名です。

た。一方、作品タイトルに含まれるもうひとつの名所、王子稲荷の社は、霞の下に隠れてしまっているのか、その姿は確認できませんが、代わりにお参りへと向かう人々



「新板浮絵王子稲荷飛鳥山之図」(墨田区所蔵ピーター・モース コレクション)

のにぎわいが描かれています。王子稲荷は、関東一円の稲荷社の総

社とされ、毎年大晦日には、関八州(関東地方)の狐が集まって参詣し、狐火を灯すと伝えられています。

この一帯はほかにも名所が多く、日本橋から二里半(十キロ程度)と市街地から日帰りできることなどから、一大行楽地となっていました。江戸時代の地図を見ると、飛鳥山周辺に「此辺料理屋多シ」という文字があります。当時のにぎわいが想像されます。卯焼きで有名な扇屋もこの辺りにありました。

【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(財)墨田区文化振興財団
北斎担当

すみだ

すみだ



すみだ北斎美術館



「東海道名所一覽」(墨田区所蔵ピーター・モース コレクション)

主な展示の構成

◆六三四(武蔵)名所めぐり

武蔵(むさし)に因んだ東京スカイツリーの高さにかけて、武蔵の名所を紹介します。

◆日本一高い富士山と諸国絶景めぐり

「富嶽三十六景」、「近江八景」、「琉球八景」といった、全国の絶景を紹介します。

◆超絶!景 北斎とめぐる空の旅

北斎が描いた鳥瞰図を一堂に集めて紹介します。

主な展示作品

「雪月花 隅田」、「新板浮絵王子稲荷飛鳥山之図」、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」、「富嶽三十六景 武州玉川」、「東海道名所一覽」など約六十五点

二〇一〇年、葛飾北斎が生まれて二五〇年を迎えました。北斎生誕の地である墨田区では、これを記念して区所蔵品による展覧会を開催します。この展覧会では、二〇一二年に開業予定の東京スカイツリーとの関連企画として、メインテーマを「天空からの風景」としました。東京スカイツリーからの展望よりひと足先に、北斎の描いた浮世絵の数々で、江戸時代の絶景をお楽しみください。

【会期】

平成二十三年三月十三日(日)～二十九日(火) 午前九時三十分～午後六時(金曜日は午後七時三十分まで) ※入場は閉場の三十分前まで

【会場】

すみだリバーサイドホール
ギャラリー(墨田区役所一階)

【入場料】

一般 五百円(中学生以下及び六十五歳以上は無料)

※身体障害者手帳及び愛の手帳の交付を受けている方とその付き添いの方一名は無料

※団体割引(十名以上) 四百円

【問い合わせ】

北斎生誕二五〇年記念展覧会実行委員会事務局(文化振興課北斎美術館開設担当内)

△03・5608・6115